茨城県　古河市
若年層のひきこもり当事者へ対し、複数の関連事業を活用しながら支援を行っているケース

支援のポイント

- **福祉と子育て支援の担当課が連携し、情報を共有**しながらひきこもり支援を実施した。
- **生活困窮者自立支援事業、重層的支援体制整備事業等の関係機関が連携し、アウトリーチ支援を実施**した。

支援の概要

生活歴

- Aさんは中学時代に不登校であり、高校は中退した。母は住み込みで働いており、Aさんは祖母と2人世帯で、経済的に困窮していた。祖母の介護や家事を行い、ヤングケアラーとして生活していた。

きっかけ・経緯

- 祖母のケアマネジャーが孫がヤングケアラーかつひきこもり状態であることを把握し、包括の地域ケア会議で支援方法を検討した。
- 重層的支援の一環でひきこもり支援を開始した。

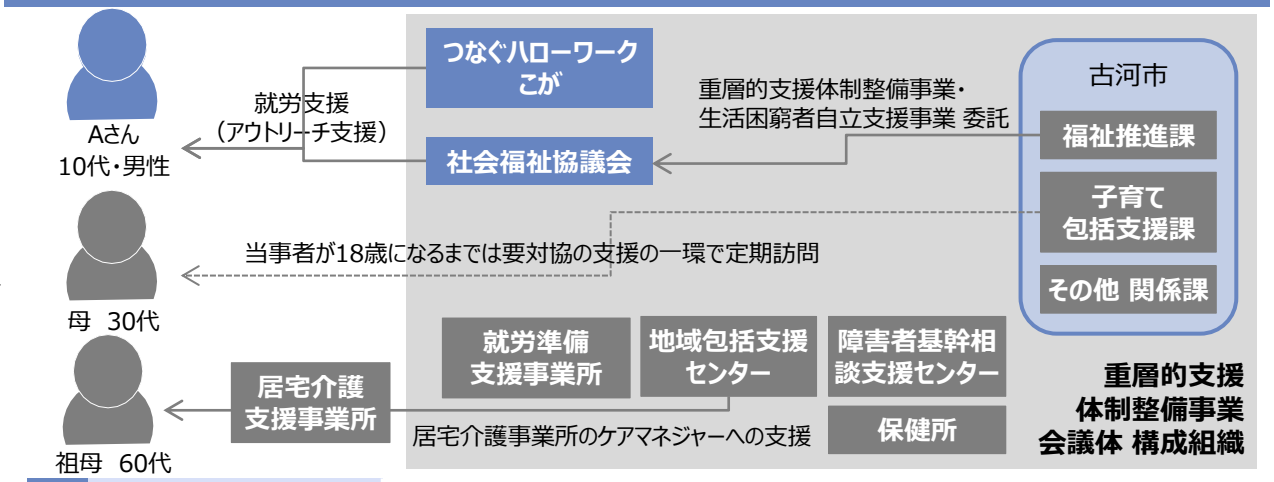
支援内容

- Aさんの就労意思を確認したうえで、アウトリーチ支援を行い、支援者との信頼関係を構築した。
- 就労を目標に、ハローワークで履歴書の書き方や面接対応等の支援を行ったところ、生活意欲が向上し、就労に至った。
- 重層的支援の会議で関係機関間の情報共有を図っている。

今後の展望

- 世帯状況や、Aさんの状況が変わった際にいつでも相談できる体制・信頼関係の構築を目指す。
- 主にハローワークと社協によるフォローアップ体制を維持する。

体制



体制のポイント

要対協による訪問と支援の一時中断

▼

包括による検討

▼

重層的会議での話題提起と支援の再開

- Aさんは18歳まで要保護児童に登録されていたため、要対協による支援の一環として、定期的な自宅訪問が行われていた。要対協での対応終結後、生活状況が変わり、ひきこもり、生活困窮状態に陥ったが、18歳となっていたため、要対協での積極的な介入ができず、状況を把握できずにいた。
- 社協にはヤングケアラー・コーディネーターが配置されている。祖母を担当するケアマネジャーが世帯の状況を把握し、包括が実施する地域ケア会議で、ケアマネジャー、ヤングケアラー・コーディネーター等の関係機関が本事例の対応を検討した。
- ヤングケアラー・コーディネーターは重層的支援の主管課に本事例を話題提起した。その結果、アウトリーチ支援へつながった。重層的支援の会議体には要対協の主管課が含まれているため、過去の支援経過や当時の状況を踏まえ、支援方法を検討するとともに、支援を再開することができた。

略語…重層的支援：重層的支援体制整備事業、社協：社会福祉協議会、要対協：要保護児童対策地域協議会、包括：地域包括支援センター

三重県　明和町
ひきこもり当事者の希望で就労や社会参画につながったケース

支援のポイント

- 以前から社協は、**地域のつながりや連携を強化**する取組に注力していた。
- ひきこもり当事者の性格、志向、強みを考慮した社会参加の場を提供した。就業後も**定期的に職場訪問等をすることで、当事者の就労の定着を支援**した。

支援の概要

生活歴

- 同居をしていた母親は気難しい性格であった。Bさんはもともと穏やかな性格で、他者とのコミュニケーションにも大きな問題はなかった。
- 慕っていた祖母の死をきっかけに就労が困難となり、ひきこもり状態となった。

きっかけ・経緯

- Bさんと母親は口論がきっかけで警察介入の暴力事件に発展した。母は事件後に施設へ入所となりBさんは経済的に困窮した。
- そのため、町役場を経由し、社協のひきこもりサポート窓口へつながった。

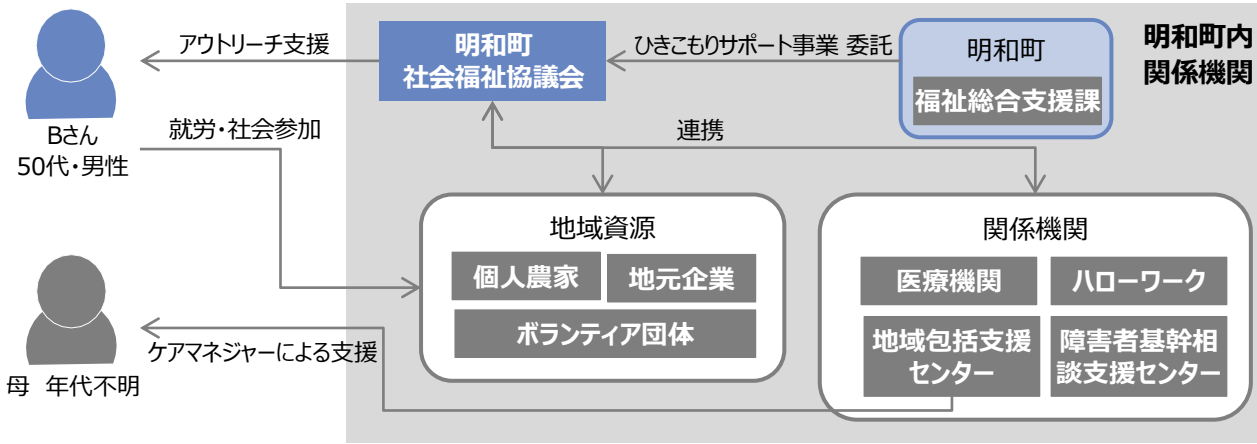
支援内容

- Bさんの就労意思を確認し、現在の社会参加の状況や、農作業ができる強み、高齢者や子どもの支援に関わりたいという希望を聴取した。
- 社会参加の機会として地域資源の情報を提供した結果、農家での作業体験・パート就労、高齢者への配食活動の有償ボランティア活動、地域の防犯パトロール活動※に参加することができた。

今後の展望

- 母親の健康状態が悪化している中、家族全体をどのように支援していくかが課題である。

体制



体制のポイント

社協と地域の繋がり
↓
行政が介入するも支援に繋がらず
↓
生活困窮をきっかけとした支援の開始

- 社協は日頃から地域に根差した活動をしており、地元企業や個人農家と気軽に相談する関係性ができている。社協の担当者が地元企業の困りごとを把握しているため、困りごとの解決とひきこもり支援が同時にできる基盤がある。
- Bさんが母親への暴力事件後に独居となった直後は、社協がひきこもりサポート事業を受託していなかったため、支援に繋がらなかった。
- Bさんが生活困窮に関して相談した際、町の担当者が社協のひきこもりサポート窓口につなげた。

※地域の防犯パトロール活動：青色回転灯を装備した自動車で地域を巡回する防犯活動で、通称「青パト」と呼ばれる。Bさんは支援者とペアを組み、車から子どもに手を振るなど地域の見守りを行った。

略語…社協：社会福祉協議会、包括：地域包括支援センター

神奈川県　海老名市
アウトリーチ支援を行い、福祉や医療と連携しながら、精神障害のあるひきこもり当事者へ支援を行ったケース

支援のポイント

- 地域包括支援センターが**父親の支援を行ったことをきっかけに、同世帯内でのひきこもり支援ニーズを把握**した。
- 定期的な訪問により、当事者に寄り添い続けたことで当事者・支援者間の信頼関係を構築した。支援者が当事者の困りごとを支援のきっかけととらえ、医療機関への同行受診を実施した結果、次の支援先に繋ぐことができた。

支援の概要

生活歴

- 父親が家事を行っていたため、Cさんは基本的な家事をしてこなかった。父親以外との関わりがない生活が長く、独特の生活スタイルが確立されていた。

きっかけ・経緯

- 父親の外出先での転倒が契機となり、包括につながった。
- 同居しているCさんが相談先を求めていることが明らかとなった。包括経由で市へ情報が共有され、2人の同意を得てから自宅訪問を開始した。

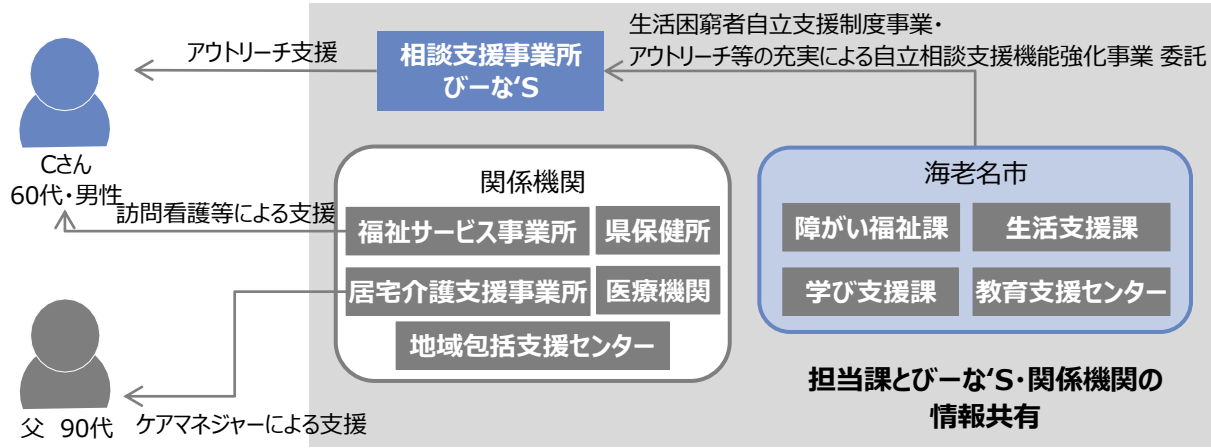
支援内容

- Cさんには身体症状があったため、健康診断をきっかけに内科を受診した。継続的な訪問を通して、Cさんの強迫観念・行為など精神疾患の所見が明らかになったため、支援者は精神科への受診を検討した。
- 内科を受診したことで身体症状が落ち着き、本人の同意が得られたため、精神科を受診することができた。
- 支援者は高齢の父親へ診察結果や服薬に関する説明を行った。

今後の展望

- 親亡き後の生活基盤を整え日常生活能力の維持・向上を目指す。状況の変化に備えた成年後見人制度の活用準備を行う。

体制



体制のポイント

関係者間での情報共有・連携

- 父親の状況を把握していた包括担当者、ひきこもり支援を担当する生活支援課とびーな'Sの関係者間での情報共有の仕組みが整っていた。

支援の同意取得の難しさ

- ひきこもり支援としてアウトリーチをするためには、父親、Cさんの両方の同意が必要である。包括担当者が訪問を通して信頼関係を構築したうえで、相談先を紹介することで、アウトリーチの同意が得られた。初回訪問の際は支援者の役割や困りごと解決のための提案を丁寧に説明した。

方向性の共有

- 支援計画書は生活支援課とびーな'Sが作成し、支援調整会議に諮ったうえで支援の方向性を課内でも共有した。支援開始から3か月後に支援計画書のモニタリング・評価書を同会議に諮ることで、支援者の孤立を防いでいる。
- 支援が始まったあとは、通院している医療機関、ケアマネージャーとも密に連携をはかり、地域の中で孤立しないよう家族の支援体制を強化している。

略語…包括：地域包括支援センター

大阪府　守口市
支援者とともに当事者会を発足させ、居場所として機能しているケース

支援のポイント

- 当事者会の企画・運営に**当事者が主体的に関わることができる**ような体制を構築した。
- 当事者会は**他者とかかわり、自分が役に立つ、感謝する・される等の社会経験を積むことができる**場所である。

支援の概要

生活歴

- Dさんは、デザイン関係の仕事をしていたが、30代で退職した。
- 他県在住の両親から生活費の仕送りを受けていたものの、生活に窮し、保険料を滞納していた。

きっかけ・経緯

- 支援開始1年前に、Dさんはくらしサポートセンター守口を訪れていたが、建物の中に入ることができなかった。
- 保険課での保険料の支払い相談をきっかけに、同センターへとつながった。

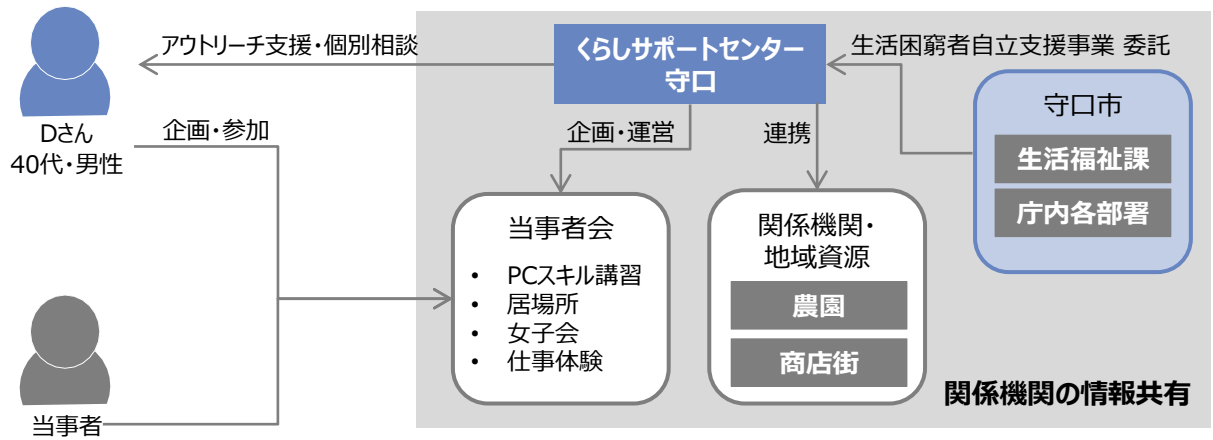
支援内容

- 滞納していた保険料を分割して支払えるよう、同行支援を行った。
- 保健所の嘱託医相談を紹介し、スムーズな医療受診を支援した。
- Dさんの生活が落ち着いたため、強みであるPCスキルを活かし、有償のPC講師として、社会参加のできる居場所を提供した。

今後の展望

- 一般就労（正社員）を目指して定期面談を実施していく。
- Dさんの希望である農業分野も視野にいれ、就労支援を行う。

体制



体制のポイント

ひきこもり支援に対する理解の醸成

▼

当事者会の設立

▼

当事者会内の体制の工夫

- 庁内の社会福祉以外の部署にも、生活困窮者自立支援相談窓口の就労準備支援担当窓口が周知されている。
- こども食堂の活動を通して、福祉事業に関する地域の理解が醸成されている。
- 当事者のスキルを活かした社会参加のステップとして当事者会を設立することとした。
- 地域の理解が得られていたため当事者会用の物件の確保は容易だった。
- Dさんが支援者と一緒に当事者会の企画を考えた。
- 当事者会に参加するひきこもり当事者たちが積極的に関与し、参加者の関心に沿う様々なプログラムを作っている。

山梨県　甲府市
メタバースを活用した広報・相談支援を行っている事例

支援のポイント

- **<u>メタバース空間を活用した広報と個別の相談支援を実施</u>**している。
  - ➢ 広報：誰でもアクセス可能なメタバース上の空間にひきこもり支援の情報を掲載している。
  - ➢ 相談支援：アバター（メタバース空間上の分身）となり、メタバース空間で専門職と個別相談を行うことができるほか、当事者と家族、支援者を対象とした交流会のイベントを開催している。

体制構築の経緯

背景

- 中核市に制定されたことをきっかけに、ひきこもり相談専用ダイヤルを設置した。

きっかけ・経緯

- 担当者は、対面相談だけでは当事者と会えないことから、<u>当事者の相談へのハードルを下げ、対面以外の形態の相談</u>につなげたいと考えていた。
- 県内のメタバース婚活イベントの取組を知り、市での活用を検討した。

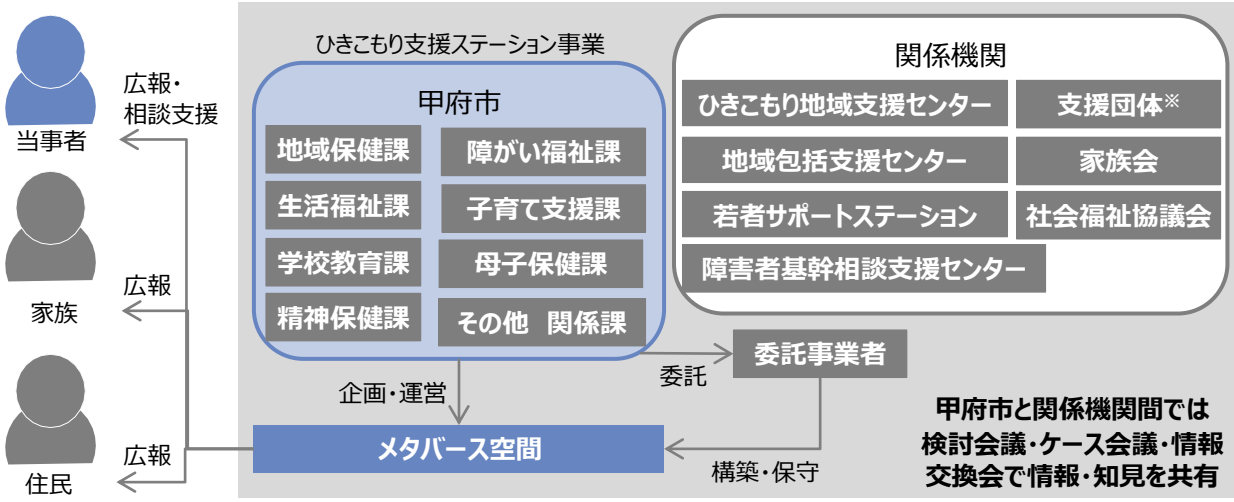
支援内容

- メタバース空間の構築・保守は委託事業者が行い、メタバース空間上での個別相談と広報は精神保健課の担当者が対応している。
- ケース会議では、非常勤のアドバイザーに助言をもらいながら支援を進めている。

今後の展望

- メタバース空間の広報・周知を行う。
- 個別相談ルームの利用拡大に向けて交流会を実施する。
- 空間内を訪れる当事者の意見を収集し、ニーズの実態把握を行う。

体制



※生活支援などを行っている団体。

左：メタバース空間上での交流の様子。
右：自分の好きなアバターを選択し空間内を自由に移動・交流できる。

東京都　墨田区
ひきこもり専用ウェブサイトを活用しひきこもりに関する周知・啓発の広報を行っている事例

支援のポイント

- 委託先や関係機関と連携して、**ひきこもり支援専用のウェブサイトを開設**し、様々な方法での広報支援を実施している。
- **ウェブサイトはひきこもり当事者の目線を重要視し、制作にあたっては当事者やひきこもり支援の専門家等からの意見を反映した。**
  支援内容紹介動画、ひきこもり経験者によるコラム、支援者紹介などを掲載している。

体制構築の経緯

背景

- ひきこもり当事者の困りごとへの個別対応を行っていたが、令和5年4月からひきこもり専用の相談窓口として、ひきこもり地域支援センターを設置した。

きっかけ・経緯

- ひきこもり当事者へ情報が届きにくいという課題を感じていた。多様な周知方法による広報活動の強化を検討した。
- 区のウェブサイトは当事者がアクセスしづらいと判断し、ひきこもり支援の専用ウェブサイトを制作した。

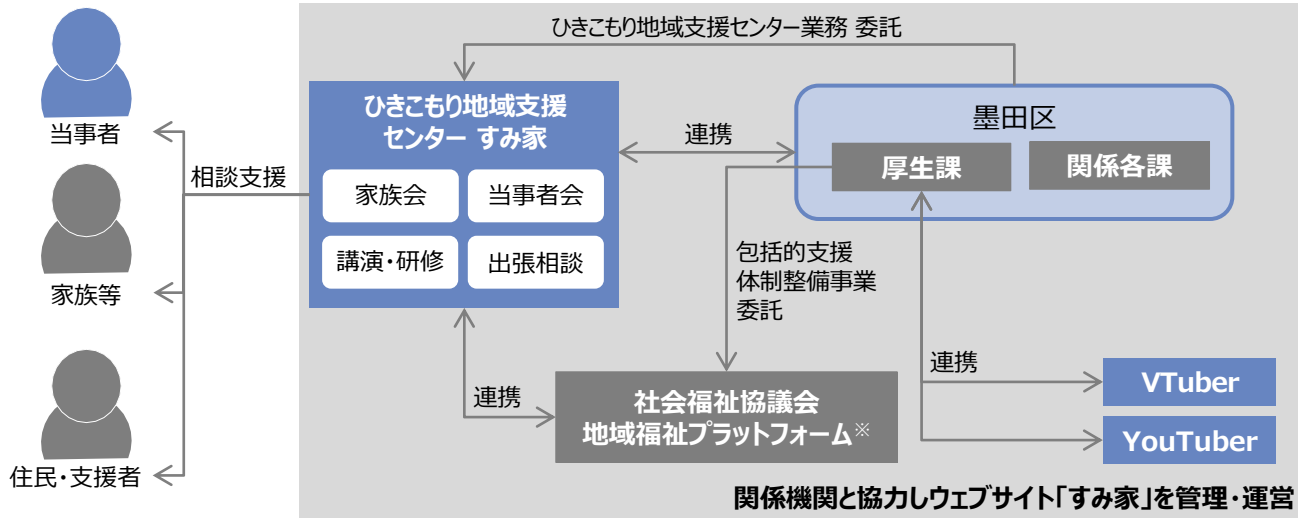
支援内容

- ウェブサイトは、温かみややわらかさが伝わるように、色合いやキャラクターを考慮した。相談の流れと支援者をイラスト付きで紹介している。
- YouTuber、VTuberを活用した動画コンテンツを作成し、支援内容やひきこもりに関する情報をわかりやすく配信している。
- ひきこもり経験者によるコラムを通して、当事者の心境の変化などを発信することで、ひきこもりに関する理解の促進に努めている。

今後の展望

- ひきこもり支援の拠点（居場所と相談の場）を設置し、支援を強化する。

体制



※社会福祉協議会が運営している地域住民の交流の場・相談窓口で、ひきこもり相談も受け付けている。

左：継続したウェブサイト訪問のための工夫として、コラムの掲載やVTuberとのコラボ動画の作成を行っている。
右：ウェブサイトは、温かい色味を使い、多様性を表すイラストを掲載している。